

論文の内容の要旨

氏名：古川 誠

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：Sepsis patients with complication of hypoglycemia and hypoalbuminemia are an early and easy identification of high mortality risk

(敗血症患者における入院時血糖値・アルブミン値による死亡率評価)

敗血症患者では入院時に様々な程度の血糖値異常や低アルブミン血症を合併することがあるが、その病態と重症度との関係は明らかでない。本研究では、敗血症患者において入院時血糖値異常およびそれに低アルブミン血症が合併した場合に死亡リスクが増加するかどうかを検討した。対象は、2008年から2015年までに当施設に入院した敗血症の定義を満たす患者とした（n=336）。入院時に測定した血糖値（BG）に基づいて症例を3群：低血糖群（BG<80 mg/dl）、中間血糖群（BG=80-199 mg/dl）、高血糖群（BG≥200 mg/dl）に分類し、死亡率を検討した。二次分析として、これら3群に低アルブミン血症（血清アルブミン値<2.8 g/dl）を合併した場合と、コントロールとして中間血糖＋非低アルブミン血症群の臨床データも比較した。低血糖群（n=40）では、APACHE II / SOFA スコアは中間血糖群（n=196）および高血糖群（n=100）よりも有意に高かった。死亡率は、低血糖群で52.5%、低アルブミン血症を合併した低血糖（低血糖＋低アルブミン血症）群で60.0%だった。低血糖＋低アルブミン血症群では、APACHE II または SOFA スコアおよび死亡率が中間血糖＋非低アルブミン血症群と比較して有意に高かった。単回帰分析によって算出した死亡リスクは、低血糖＋低アルブミン血症群（OR 5.065）が、低血糖群（OR 3.503）、中間血糖群（OR 1.175）、高血糖群（OR 1.756）、および低アルブミン血症群（OR 3.243）よりも高かった。敗血症患者における低血糖と低アルブミン血症の合併は、より高いICU死亡率に関連している。敗血症患者に対して来院後迅速に重症度に応じた集中治療を開始するためには、入院時血糖値とアルブミン値での評価が有効である。